長濱藩語抄

門 儿 遠 4
加 1431

崎陽西川先生著

長崎夜話艸

平安城書林柳枝軒藏版

長崎夜話艸序

天地しゆさう所わり物これうきうそんや人の
さうろれこさうちなれうひとあやしうふ沼りわると
こうてかさうまおこ紙こうふひこう発ようは
豊蘆原いさうふて天仙二震且も虚中
乃一粟蝸牛角上よ何事をうあそこ沼う
あうせのうはうきてえいうまたの沼うこうあんん
身を捨せ紙をうく神と変りこの沼こうみ
あうばさうバかさうあうる身を沼うあれ世う

おもて沿りあれまざの弧楽をそなへまた
き秋されて雅楽管絃い雲上り遠く樵歌
牧笛いと野ゐ沿りて夜話笑談い口を開
き秋ぐ忘極りて見聞しを忘却し小子筆
をとりて言月花いとづりて楽しき昔今
い聞くそのつもりつと楽こそ朝市と雲
とふ紙幅ぞ書とあり秋

己亥夫呂　濤江釣渕子書於求林齋

長濤夜話仲見録

一之巻

一　長濤由来并鎮壊石之事
一　黒船入津之始之事
一　初入港之事　付　後寛死亡之事
一　野麻權現并日沖濤観音之事
一　宵馬氏黒船焼討之事
一　邪宗門制禁并黒船停止之事

一 紅毛船初来之事
一 異国法海禁止之事
一 蠻人子孫遠流之事
一 紅毛人子孫遠流之事 付ジヤガタラ文

二之巻

一 蠻船一艘入津討伐之事
一 蠻船二艘来朝之事
一 亜媽港ヨリ日本人送来船之事
一 エゲレス船日本ニ来ル始之事
一 唐船長崎津ニ来る始之事
一 世界萬国金銀之法 付 紅毛会所ニ到事
一 金華山之事 并 江海之事
一 紅毛船破損之事
一 暹羅金札船之事 并 暹羅国之法 付
祇園精舎乃跡ある人之事
一 暹羅ヨリ千部経志願之事 付 紅毛寺出之法

三之巻

一 塔伽泥茶之事 付 浜田足弟之事 付 国姓爺物語
一 紀毛船普陀山乱暴之事 并 紀毛船於長崎焼失之事
一 巴旦人日向江漂着之事
一 異国船漂着多事 付 薩摩夜久浦異人之事

一 蠻人紀州江漂流之事 并 呂宋国之沙汰
一 日本船異国漂流近代多事

四之巻

一 孝子六人
一 忠夫一人
一 貞婦一人
一 清民一人
一 直民三人

一 義士二人
一 烈女一人
五之巻
一 長崎土産 三十九種

長崎夜話卅一

長崎　西川正休編輯

○長崎由来并鎮壊石之事

天いざなぎ地をつくりたまひしかりて因縁の理り又拵へうべき神功皇后異国征伐乃時胎内の皇子応神誕生乃上帝にさしたまひし霊石と石をあひ石沖波此石の彼杵の郡平敷といふ石より得させ給ひし石にて如ようはくしらとうや今祝茂怡土郡深江村八幡宮乃浮神體也

清嬢石是ちりてぞ萬葉集建部牛麿の歌よ
天地の吉よ久しくつひはぎとひくてんこはちろ
しくしとしもやとあひはひ石ちりいあへとりい石
と物くるしかよりこ石ねとうの卒數と
ついいでこそやと餘名年紀そづれ人よ見ひ
しかど知る人なし然るふ一ともせ或人のいるい長
濱市町をとる事一里ばかり北乃ゑ里に卒
宿とつ所あり其の村なる東のとうり麓石赤
白ちる多く出村人所ゆく賣ちる紙玉人探しそ
緒留のもんとりくらいい唐土の雲南石よ異

とて人く價高く賞ふ則ひ石ちりとそみをけう
しふ實よ英しきこいいんうはこそばうの卒數
やつ所いけ卒宿の事にあるとも數と宿とゆひ
いくあやしく今ハ卒ハ宿く詭まふもいづひはして
鎮嬢石の名りゆしまひ所を深江村長濱乃古名
も深江村といいこそ入てあやしくれ長濱の
津とおへ乃浦といひまく福富の津といい
くやゑ湊口の西東のとよ女神男神の名あり
湊乃角よ鎮座あり津乃和に高鉾鴻神の名
かくご海い皇石鴻乃詭まさく海い竹葉濱海い

ゝ給い祝ゝ給ひて世よ誰人の何を祝ゝ給
ひく汲ゝいしまん玉孔浦の名よりて潮ひる潮
沖よりの神八方と今ゝ香燒とゆゝく弘法大師
乃入唐の護摩燒をひゝいゝ岩かゝりの名のいゝ
を世人ゝ松浦彼杵いゝを見ゝの堺ゝれて上る
代より異國の紅乃津と定ゝ見ゝ又ゝ
いゝ治ゝ中代ゝ中ゝ我肇夷
秋の果ゝ長崎の名ゝ年毎ゝ入ゝ紅
ゝ紙多ゝいゝ大村久治郎の領ゝ
を豊臣関白の中時公領ゝ改て長崎ゝ里

村乃三庄合ゝ三千四百餘石ゝ民口五萬の喉ゝ
ゝ年ゝ色ゝ中ゝ華夷乃紅の高い物二
十万金のゝ中ゝ紅ゝ家い四千餘ゝ竈い一萬ゝ
乃ゝ中ゝ菓菜鳥獸唐土の菓菜蠻夷乃珍菓
乃ゝ饒ゝ唐人の餐經耳ゝ富ゝ珠玉錦繡目
をよろこぶ心能書ゝ能画ゝ詩ゝ歌
唐猫蠻鳥乃細工ゝ
ゝ華法ゝ羨ゝ
乃意の求ゝ
いゝ都人ゝ

○黒船入津始之事

元亀元年庚午の歳より南蛮の黒船一艘津乃外の西浦福田くつよ澤山あるる荷物ちく賣買わる次ゝ小深江の湊ゝ見こそ世界一の湊ゝく栄しい本年よりハ此津ゝ来る人しと紡集しそうわ是ゝ伝く元亀二ゝ三月小方村領主ハ家代支長氏ちる者ゝ作ゝく諸国商人乃旅宿をていゝそ地割ありて元来大村平戸有ゝの商人家宅を営ゝ建る事五六町をゝく案ハ来ゝく其年の夏亜媽港より黒船

二ゝ艘数ゝ貴月の商物ゝも積来ゝる是より年ゝ小絶ゝ又七艘又ハ十艘来ゝ年ハ毎ゝ数ゝ多く成比数ゝ漸く人乃住家も数ゝ所ゝ多く成ゝ人ゝの栄ハ市ゝ生ゝ神ハ諏方大明神ゝ住吉熊野三社ゝ祀ゝる諏訪の市乃神ハ軍神ゝ住吉ハ船霊乃市乃神熊野ハ本徳乃市乃神ゝ東南法優ハ市乃神ゝ降伏の神ゝ住ゝ南ゝ市ゝ神ゝ石恵紙ゝ比地乃ハ世ゝ三社を崇ハ此ゝ人ゝ神功皇后異国征伐の時

護神として祀りおかせ給ひけんもしるべからず凡
今寺社の数は四所安部の神社五所寺数
都て大小四十一寺也繁栄なり

○硫黄島之事 付俊寛死去之事

長崎の津より西南五里の海路にいわう島とて
東西に長くわたりて島山あり民家も多く漁
者農夫集れり一説に俊寛法師の配流せる
所はこのいわう島なり異本の平家物語に彼杵
郡のいわう島なりしと見ゆかかりやいまも
其異本にみえざれば墓とていひつたへし常の塚
のごくは薩摩がた沖の小島とよみたれども此島
はあらざりしされど彼杵郡は平氏門族の領
にて殊に資盛卿の領多しといへば俊寛を痛
はりし此いわう島にかくれて遠き薩摩の沖なる
島に流されし人は聞えざりし事もあらんか此島は海東
薩摩にはきこえて通し御して此島をいわうとは
泉湯ありしといへり硫黄石もありしなれとしらず
いわうとぞ称していはれし事の石などある事多し
も此島の東深堀といふ地に有王塚とて塚あ
といへもたなかなかにぶらし又肥前領地の境に麻背

こいとすあり彼杵より甚近し家ふ法性寺とて
寺あり後宮爾墓の寺ふく資盛卿の領地
なれいひ寺ふく死去ましまし若ひ[illegible]
あり法ふ後宮の遺物資盛の書紀ふく多くしし
寺にあり[illegible]て死をしいわ[illegible]くこうり都て
名所舊跡の美ひ者より多く事なれい落
て肥前れ多ひも是非きいろ[illegible]
○野麻柊祝并日本海観音之事
又藤て四ん孫向とあり紀音の是地あり福建
乃南海より南西といふ所あり此所乃海乃漁家林氏の

娘ありて靈異あり十餘歳ふて紅い別海神ハ化身
なり海洋より入く社来の紅を守護ましまし忽
海水より没死を別南西ふ廟社を建て紅神と崇め
祭りて今ハあり大明乃天子より天妃老媽の謚号
を賜り観音の化身ハ[illegible]て唐土の諸紅を救
と其海中ふ没をしえる嶺い流きて藤ての海ふ
寄りて来りるを知ましまし葬ましまし[illegible]
靈異の事ありて社来の紅法死をけり長崎入
津乃唐紅も洋中ふく神くしと紙尺る所紙を
燒金敷をのして拜祭り是より此を邪向ふ

於視し号きう那向の和訓い則老媽乃唐顔の
轉語なり又長崎付津外七里南に野菜と云う
浦里あり之の舞り草堂付寺あり本尊一
體長七尺許と称し基菩薩の作と元亨釈書
に云ふ日本の則は高山付下
に云ふ日本の則は高山付下
を日本婦と云ふ唐船と云ふ唐船と遠洋と那
向と船を通顔と称いづれも観世音
乃至地獄しべたり皆老媽の勢力なり
那向那船のあるとふ唐人い天堂と号
をりかくしたり給りき事共多くそたぐう

う来の世よ窮ものがるる事共多くはいと
をげうしき事なり

○有馬氏黒船焼討之事

慶長十四己酉の年五月亜媽港より入津を
し黒船一艘うる来有馬の城を焼付をる秋
其元茂い有馬修理の大夫晴信殿へ寄
横瀬ようと船は大洋より
大風ふきあまりの地へ漂ひそる船乃そこ
なくはくろうう日数経ようう小其船人共
蠻人と唐人と蠻人味方多勢にて用

幸の紅人四十人悉く殺して財寶ともくうば奪いとりて日本にはうぶ事たちまちにくるべきはなるべきいつさ海賊風にて行来たりて御ふしかと有馬に在しに妻やこの行まじつて嘆くもいとあわれなりしたろふ五月八津のうろ紅毛さたの唐船の者ども紅毛に案内をして他の紅毛蠻人長崎人と物語をして有馬へ来しうい幸の事を好ひたちさ関東へ訴へ公儀の沙汰を得まひくうへ焼付きんと謀るふさうるうち紅人の内よい罪をれい方べきれい船をの

加賀国紙こうにて推問方へこの事ちうをいふしてゆ秘ゆくんいつも我身ぜ大事しおうい密うふ為と縫と解てわうう霜月のまきれば順風みふ帆を揚たうと出しそれ有馬の人々わぐうさ面白く用意の兵紅毛焼草紅牧十艘追うもしうは蠻紅大銃を放ちれしく追ての紅毛はわううもく沖の方水巖方へ打崩して移方へ紅毛の東西へ到うん見まて五里の海路をれい追ての紅毛追付うくしやびに紅毛の方の海へ出うう

ゆうべあり波の湖をしば追ひの紙乃中くよりを
結ひへきゆうもあり　とまりを若しゆうゆう
ら蠻人乃運や格うゆん河なる小風の吹ゆて
わゆゆ南風とうしてゆ西風ゆれまう秋び
ゆ紙しやんをぐたくてきて繼頁突きんゆや
物ひきん碇をひく追ひの紙乃追付紙う相
待ゆうかうたゆ宵馬の付紙追到ゆめれと妄
う押ゆせるび味方れ人をゆかゆん事紙慮う
南静ゆ下知して燒ゆ事紙を西南方みれし
阪い大筒小筒丸四し四方ゆう打ゆを蠻紙よ

つは大銃を打く防ゆを蠻人い白糸の把事紙
屑ゆてゆふく白南の矢をで防ぎゆ船れ
ゆ風上ゆう燒芋紙流きうゆそ燃付わまび
蠻人ゆいゆい沼ゆゆ把事ゆうゆや又ゆうゆ又焔硝
乃樹ゆゆふ火炎ひく火焔須臾う発興し南
紙ゆ茶物ゆゆ人めゆう蠻人二百餘人一河ゆゆひ
失ゆし罪業の報ひ乃行ゆゆそ類い行○白糸二
十條萬斤白浪二千餘貫目金ゆの鐔う脱
金乃芋金布帛の織物金襴綾羅錦繡海
上ゆうれ浮ゆ青黄紅白乃波浪ゆ乃紙

法ありて海外代りきびしく一時は差とそ御かゝる事時十一月九日の事なり人使院一説に慶長二年の事なりとて人は肖馬氏り和蘭船海に入年なりとて人ありさて肖馬

○邪宗門制禁并黒船停止之事

黒船年毎に来りしかつまく耶蘇の外法流れひろく天草辺農民邪宗に法ひ傾きの苛政を憤て徒党を組て肖馬原の城乃廢墟をたゝて男女二萬人楯籠をなす時寛永十四丁丑の年十一月なり則関東の法下知して

板倉氏法下向して其外九州の諸大名数万乃軍士寄せ合しかとも城強くして数月相持なり板倉氏戦死ありて松平伊豆の守法下向して翌年寅の二月落城しぬ大将大江四郎吉次長崎所せれ其のあれば懲りて貢船長崎大波土して一七月獄門よりきり捨籠城乃要徒二万人は首切一同は西坂にて人今の有馬塚是也

うら船逆のおろす南蠻の外法より出たれ人公儀の法恐て深く深く法を黒船法制禁として其年は秋上使大田氏下向ありて年○て日本

小者ハ人ハ堅く作ハあるを帰されぬ夫より黒
船日本渡海のみち絶てより比さるより邪宗の教へ
を仕公をよりとりあさせるひ〻ひくいまを一続に
及いさりし仏法府よりこそ根をとゝ事仏枯〻
なるまとをりぬ唐土より嘉靖萬暦の比南蠻
邪教の信者をりて愚民ををひくいくり儒佛の
教法の外を何ら新をさ教へあんやとて信をる
ぐ〻ものをひぐ〻仏上よりつゝ制禁をかき
まで水土の人気を毒ぬ事あるやをのつゝ
をひ仕ぐる者をーをさんをり唐土ハ廃人ゆを

いへ〻毎無筆文盲の者寡一日本ハ委事文盲多
ゝ〻いをんや百年おれ世の民をやいつ〻巻事ハ附
多く世の風俗神儒の学の貴ぶ事仏をゝ〻ざるへ
なく文盲なるハ常をゝ世をゝ〻ゝ事ハ者ハ〻ゝ
○行も船神来事
黒船ハ禁止をそ津の民世海ゝ〻ゝ〻さ事ハ
を恒〻ゝ〻ひ多年平戸へ来ハ阿蘭陀の高船を
長崎の津ゝ到ゝ〻ゝ〻ひ〻さ有公ゝの作ありて寛
永十八辛巳ゝ〻ゝ〻ハ津ゝ入来ハ事ゆをゝ〻
平戸へ行も仏の来ハ慶長二丁酉の〻五

用ひて今に至て四十六人の行方知れず
波海と年々小船を渡る事有り紅毛国い唐土天竺
より西北の方小めくりて海上一萬餘里の国々い
年々小船来容易うしげくて菩伽沙古おいて
めぐり渡る事有り是より日本へ波海しぬ事
国のを人い常ゆ本国へ在く他国へ行るを
寛文元年国妓蕭人ゆうさぐ押海り紅毛人と追
追を行り一船を押領し国名紙東寧と改
む是より紅毛い暎留吧り落り呂宋国のを
地を伝ひ次く備国して居住と

○異国波海禁止之事

異紅倭国の者り耶蘇の教へ広ひくあるを事と公き
乃ち厳しぐを以て日本ゆ人妻りに異国へ波海のるいう
なり罪ひりやくて寛永十二乙亥の年日本異国波海の
紅倭船ゆ出されぬ是より長崎より所先許れ御朱
印ゆ以て年々異国へ波海せし紅と留りあ長崎より
波海の紅五艘い未渡民二艘舟本民一艘荒木一艘糸屋一艘
なり泉州堺伊藤屋紅一艘京都紅三艘い茶屋角
倉伏見屋なりこ五乃紅合て九艘の外他なりい
波海るしいつまも以長崎より唐紅造れ大紅

て作りて出る長崎の津より出帆を心がけ大明または
往来をなし東京交趾塔佛沙古呂宋亜媽港東埔寨
暹羅ホの外国へ往来せしより唐土または倭寇とて明朝
の初より日本へ私と悪禁制せしゆへ大内義隆よりの
勘合証の外ハ商て唐土海辺の湊へ日本の私船を
来り出さ制禁ゆえ往来なし私なし出船し諸外国へ往来
せし法唐船ハ唐土へ長崎より渡海せしハ迷さ
はまて命令なしとも言ふなし

○蠻人の子孫遠流事

寛永十三丙子年ハ蠻人の子孫長崎

よりと公きよう吟味ありて二百八十七人阿媽
港ハ遠流さ公血脈又を孝ゆえて母よいかまし
なしかゆえハ母日本の種子ゆえ又蠻人の血脈
なれば勿論なり又日本にて母蠻人の血脈ゆ
ゆえ別母のゆえ子ハ弟ハ又放され
ゆえ子ハ弟ハ或ハ子放されて母ゆえ母放さ
れて子ハ弟ハ兄ハ弟ハ弟ハ兄ハ弟ハ
夫妻おなじ姉妹おなじ離ゆえ町くゆ戸
々の悪ゆえハ悪ゆえ悪ゆえ和ゆえ
らゆえハ悪ゆえ悪ゆえ和ゆえ流の名ゆえ人ゆ

[illegible]ものしかるべきにあらずかなとうかりの別を路
[illegible]ものかなれうい〜ものかなあて〜物をいひ
あへとゆて船よりに素をとらるてきて爰ゆくう
我ら人かとそどろ〜ゆえ[illegible]あへも果[illegible]
[illegible]すもあまで命[illegible]あ[illegible]公のゆ〜わ
らんを定めるを世紙彩そよめ人くれいさしろ
う[illegible]ぐろちふく無そこふあ〜ちうて
おう〜風[illegible]つまるを紙浪[illegible]めて[illegible]れ行〜
[illegible]あてたなる〜世るなるる〜
○紀も人子孫遠流[illegible]家付ジヤガタラ文

又寛永十六年己卯の秋[illegible]紀も國も蠻國より
彩ひさし水土[illegible]の稼る日本乃稼るみ混
雑をべうしたて別辛戸長崎ゆ在〜紀も血脈乃
[illegible]十一人喰留吧へ永流をたひ時ようぎ
[illegible]も紀も人行[illegible]てゆ辛戸へ[illegible]毎み紀
はうい[illegible]ゆへ紀もの子孫みな喰留吧へ[illegible]流
ちうけ十一人も皆長崎より帰帆の紀も紀う
[illegible]て放ちはういを[illegible]是い蠻人乃稼るとい遠ひ
紀も紀い日本へ停止[illegible]ものあ〜れいと毎ゆ来る
[illegible]も紀又い唐紀も往来あるゆゆ故郷の紀を

紙あるいはあるちぎれ文ばかりいとう物をもてる
くあるし其中ふ長崎何まの町の女人又い紙も人
うて毋方乃ようしえあるぐ中り書られ居ちゑ心
ほ十四五なる紙幅巴へまろされうゆ女新ちら
いとうれいしをもあるひ常ふ草紙なくゆしいて
ちろしきちろぐくかりしぐ物ふ新れて
何乃ゆるもかれ紙れ故郷へ帰ん
事紙神ふ仏ふ祈ちれ有とうしかく
毋ひうあうさそわ べきよもぐ毋けきい命乃
義のよるえうそもろこしん乃妻ちありて

ぞあるとゆ紙国ふは唐土人ふ多く住居しゑ
えもちふ日本人ふ来ろ唐紙とあ秋ぶ長崎ふ
えれちをしわちえろ人流地ちねいかしよう
ちちのあうう三千條里乃きう移よちたうれ
ゆもしいちあろ水ちきのいとやうしく毋れよ
地のもへあうまれちてあまろしい行りね言のくれ
貴ち賜しきい探めうふいちあれし
ぎやぐ毋文
ちくるうう社ち月ちしの嵐やぞ散
月乃ちそもちのもちうぞぱあちちうもうて里紙

出しうの日をかきうつしたるあり。
浦路をうふつてうしなしぐかまるのおもはれい
わるいやるを波うの道乃くらけ表を
ゆ先うゆちうくうそね表ぐれき
はゆーさのまう。腰物をうれはらしーぐ。お業とは
ドあぐーぐうふうさせあうひうた命たうーくドア
さしゆうつかぐ世ううたれ外とたうさうぐふ
うれーかまーと。ゆうくく花の世界よしもれ
うさて世ーうかうさーれ外かぐまぐいすうを
あまう世ーまぐわぐくうそ外ぐくいよ。ゆくくめ

しき遠き夷の法ぐすぐうれつ。きのふけてゆ外ひ
なぐーぐ。ゆうをれまうすだぐくい卯月朝ゆぐ
東雲ぐ。ゆとい出れくく人の世えつるふ。ゆうて多の
外ってゆうぐん。ゆみぐなぐ。外ゆしうしーぐ
まぐ。ゆうさうぐうく。ぐーくうれいどう。ゆすぐ
くゆうぐうぐ。ゆしい出う手れうれつくうた。ゆ式
久のくうふう。古郷ゆうくうくうくい。我久ゆぐ。
わうまうゆまふくゆうのぐれくくて
ゆぐれのあくはゆうぐふうきくう外多
むくゆ式いうふ人乃又波ーや

そんぢうきうきうまにまうをらしぞこまわたり
のかみぞふかかんそんたぞたぞらうをいまづ
くかはぐなくかざおさたにようぞくく
そんからぞそくそこうのかみぞうぞう
えらうてぞひきうくかをさかをかを
おそれてきうくらぞわづかいまふうまをれい
のうそぞかづくかうしぞうれをれ月かぞ
をおらうやぞうまはそぞうをたまへがえ。
をれをのかうはいるぞくうぞるひる
くぞうるかのをぞはうのまをわをれかをぞ。

みかもひかぐをひひをかぞかぞくいぞまをくあんて
をそえをうふかれうをのをそへかを月のひうう
げうをそぞうをまうびにゆへひるへ月のう
出るかをぞかぞ。花うかれ月の出るかをれかをぞあ。
れのうくはをかかかをくいぞふ夏ををたう
ぞくぞうをかうをぞうをいかをのかんうぞ
ひをこうをたをうまぞかうををそいのうをうをを
をうかぞぞうをうをいををををををを人を
をうをかぞをいかをををの人ぞひ
をうをかをれきうかれれば異國の

人のうるしまれ出さうなる事も。家の世のひとびとの
ゑみうち祝ひしかりつゝ。さてばかりさいせんせんと人
をもうらみ。怨き事そはさいふともむせの
つまらぬと。神をうそなうるうせんべ作ごと。二条
の后もつゝ神さを祈ひしかりつゝ。ぱうりつゝ
世紙も人をも作みりそばすぱうをかまりかい
ひさをくいさうるみぐ。けまひしてうそうんうはね
りさいぱ。年一ゝび神や仏の中われをうて。四方
へ帰りとうそうひのうぞ。三百紙をぐ
行ぐぞうん果りれぱいさうくぱうしいぱうぐ

さうん日本のはうとかうれいうんとうそんりしわ
くれく神や仏れ中ゝうひうそ。今二条中きんな
りりくいと。くれく念願うそ中さいぱうしとみ
けせうそをりさすうぱうりとうぐ。
あぐちい七世の業ゝ所りうくいうあうどく
才世ゝそいやぐりわいりゝてくいぱめく中ゝ
極人ぱ行るの羽ぐぱうぱ中ゝとれゝり
ゝさわりゝあぐゝ才世ゝそいぱうれ紙ゝうひそ
やぐうわりりゝてくいぱみぐやりぱ彩ぐんのゝれと
ゆかりゝ神ぱりぱ世ゝさいいゝそぱぐゝうちく

こくうあるらし。ぜんぜのはうよりあるとそ
なげあつまつきをふうもつくいたるとそこひとる
ぐむろこつぐこのぞんぐこうあるんぜそこあの
ぞんの神の春ぞおくれ美の面教をぞうこぐこ
ゝまぐるこにあるいのつくいるんぜあるう消
ちん寿の身れまれや先ぐんぞやあるぞぐこわ
しやあるこせみぐこん寿こんぜぐこうく契ん
りぐぞんいたるんぞみるあぐこくなるぞひゝ語
こあらし幸こそぬるんれやひのんぞ神こあぐこん
らしぞゝちひゝのそこあやぞものぐゝのん支人や

ひゝ二年のこあゝぞやゝん辰をおるうゝ情乃
ゝるゝこそぐ行ゝんぞのゝんのゝとこそお
けゝ秋らし

ゝゝこのゝ花のゝあゝいかゝこあこと
いゝんいゝこそばゝ秋をゝすきゝや
まけゝこゝのゝゝぞゝこゝうかゝこゝるれく
ゝやひらし

こゝゝんゝうゝこあゝぐゝぞゝゝこゝこゝのん
ゝるゝこそゝこあのゝゝやゝゝげゝぐゝゝ
こゝゝやゝこゝゝやゝぞゝゝんゝぞゝゝいゝんの海ゝゝ

ゆりの花のうつくしきもいとゆゑ深くくれなゐ
にてうすきもうしろそとにはゆるぎたるもうつ
くしの春のはなの花の色の。種のうへにいとをだまの光
はまきもつけたるやうにすこしわれて。面のそばにつを
てそ。ひとつさかりの花。一枝ずつ人々そこ。
あまり日本のこゝろにそゆるあさたる新ぬゝ。あ
うの海玉紙ちぎりのやうにかいかさねたるやう
あさ方よ　大そうは。もちひ。さ人のうつくみうに
このゆりにふちどりのこゝろそとにしく。侍一人まても。
身ひとつよりゆりのあらをらしてゆるぎふくふ

三百九十四。蘭の間の女ぐるまにて。みるくのそばにより
まゐりよりはじめ。ものしたりけるとすれば。そこ
ふつまそこ。ものしれ出来たりしあらしそも
しなへ。ゆるれよりはじめ。そうなるつをそて。
よるひるまくるれよりさず。なれむつびうんれと。
つまでのゆゆしきのかあつ。そのすさびにそを
うり事ばかりにつとうるべきは
しるけきびしぐむのうるいすぐにゆるとそて
しばらくの楽うれうちさうくい。細く
ゆゆしくうるのうずくにそはやまうく

[illegible]ぐしめくさたわらうをおもしよりし。
[illegible]ぢんぢ町おくをんへ[illegible]みさいをそくんを出れいとだ
[illegible]ぷ[illegible]ぷ[illegible]りしおくらなへ[illegible]ぷ何とそ四人
[illegible]くめをあそびくをでさしとやぷ[illegible]くなし。
[illegible]もくけ毎のくへさをへぷみくりくわそびー
くさうりしぷこふ我身居ゆしゆりした。
[illegible]紙四人猫ぐされまくぷ[illegible]ぐく[illegible]
けいぷ[illegible]ぐこの四みまちへりし何でわんちんア
くくをぷめづくき物くゆさをくをぷその[illegible]

かくいぷ[illegible]ぐけうにゆびーをらおうちんでり
もをや日本の[illegible]ぐはぷみをくりをれしぷはし
ゆりへいをのぐりぬいりぷ人れ鄭ひりいて。
[illegible]ぐ[illegible]ゆをくりしぷ辛吉れへりし。
四をすのりりをくをんけいぷふ四みくを
しくゆをしりぷちりれで何をを毎手四みくぐ
されどいやををのくゆちんこをいりしぷをくく
をれぐかくをををいいどををぷ[illegible]ぷりをいい
をりををすいぷりゆいをくけ後はぷ四みこはく
まち入りしぷゆいれをりをいををの[illegible]

こぞんぜのあらしにうまれてこゝろもとゞまらさる人くいかゝもしらしらひとゝ

一ふてんの人のうしろ家のあつき風そこゝのくぞ

きてうかわそこうしとみるくはくらこゝ

ひとこゝろぬきゆう一ういばしは後ゝ毎のこゝろ細くゝ

こくこゝたゞ筆こいはくゝ四くゝ木れこゞ下ゝ

ずつゞんくこゝ者よかうこゝゝゝゝゝゝゝ

しゝゝゝまんゝゝゝくゝゝゝゝゝゝゝゝ

こゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一れこゝ　このゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

こゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

こゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

くゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

てゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

我身幸今ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

日和そ　ぢやうこゝ

おんなりゝ　ゝゝゝ

はゝ人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

日本へさしく多みおこせてう元福九年の比を
ちうしく七十六七才にて死せしよ俗りょう南元
はうあるのちうちはぐ多みおこせしかど分を
よりて出さを行ひてのちいつく城行えんちうに

長崎夜話草一終